

第1章 序論

1-1 論文の背景と目的

本論文では、様々なマネジメントシステムに共通して存在する課題を明らかにし、その解決方法について検討した。

マネジメントシステムの規格は、以前から世界各国の各地域で作成され取り入れられてきたが、1987年に国際標準化機構が設立され、世界共通のISO9001が制定されたのを筆頭に、現在では様々なマネジメントシステム規格が作成されている。

当初、マネジメントシステム規格の制定は、国際貿易が活発化する中において健全な経営企業としての証明としておおいにその効果を発揮した。しかし最近では、マネジメントシステムを取り入れたものの、その取り組み方によっては一概にそうともいえないのも実状である。

しかし、マネジメントシステムの規格が発行されるごとに、世界各国の組織がそのシステムを取り入れ、日本においても増加の一途をたどっている。特に、現在世界中において高い取得件数を示しているのが、ISO9001とISO14001である。

日本におけるその取得件数の増加の背景には、サービスの向上、組織の基盤の構築などがある。（財団法人日本適合性認定協会 2008）

このマネジメントシステムに着目した研究は、国内外で行われているが、マネジメントシステムの歴史が浅いため他の研究と比較すると大変数が少ない。

環境マネジメントシステムとその運用に関連した研究としては、大学における環境マネジメントシステムの実態の研究（馬場 2007）や、農業関連産業における事例調査からISO14001取得にかかる高額な費用緩和に関する研究（Yiridoe2004）がある。また、台湾の電機メーカーにおける環境マネジメント投資と利益に関する分析（Shiaw-Wen Tien2003）、米国企業対象に行ったISO14001の環境及び組織の有効性に関する研究（Bard Edwards1999）、ISO14001導入の効果と課題についての研究（武石 2001）などがある。

また、品質マネジメントシステムとその運用に関連した研究としては、

ISO9001 規格の有効性の検証 (Terlaak2006) や ISO9001 の大学適用の為の解釈の研究 (S. KARAPETROVIC1998) などがある。

そこで、本論文では、ISO9001、ISO14001 の運用組織が多いことから、品質及び環境マネジメントシステムに焦点をあて、各産業分野に限定しない ISO マネジメントシステムという枠組みの中で、マネジメントシステムに共通する運用上の問題点を整理分析し、組織の取り組むことができる対策について明らかにすることを目的とする。

1-2 論文構成

本論文は、以下のような構成になっている。

第 2 章では、まず、マネジメントシステムの概要や ISO の認定・認証制度、ISO9001 及び ISO14001 の概要や現状について述べ、先行研究より問題点の整理を行う。

第 3 章では、ISO マネジメントシステムの運用に関する研究として、組織の運用とコンサルタントのマネジメントシステムの認識との関連性について

(1)組織の運用とコンサルタントの指導方法について

(2)コンサルタントのマネジメントシステム認識とコンサル方法の関連性について

調査及び分析する。

第 4 章では、ISO9001 と ISO14001 の組織の作成記録数と規格で要求される記録数との比較調査及び分析を行い、記録数について提案を行う。

第 5 章では、多様化するマネジメントシステムについて、環境マネジメントシステムの KES、LAS-E の規格を ISO14001 と比較し、その相違点や問題点を明らかにする。また、問題点について改善の提案を行う。

第 6 章は、本論文の摘要であり、総括である。

図 1-1 に論文構成を示す。

本論文の調査は、無作為抽出法でヒアリング調査を実施している。

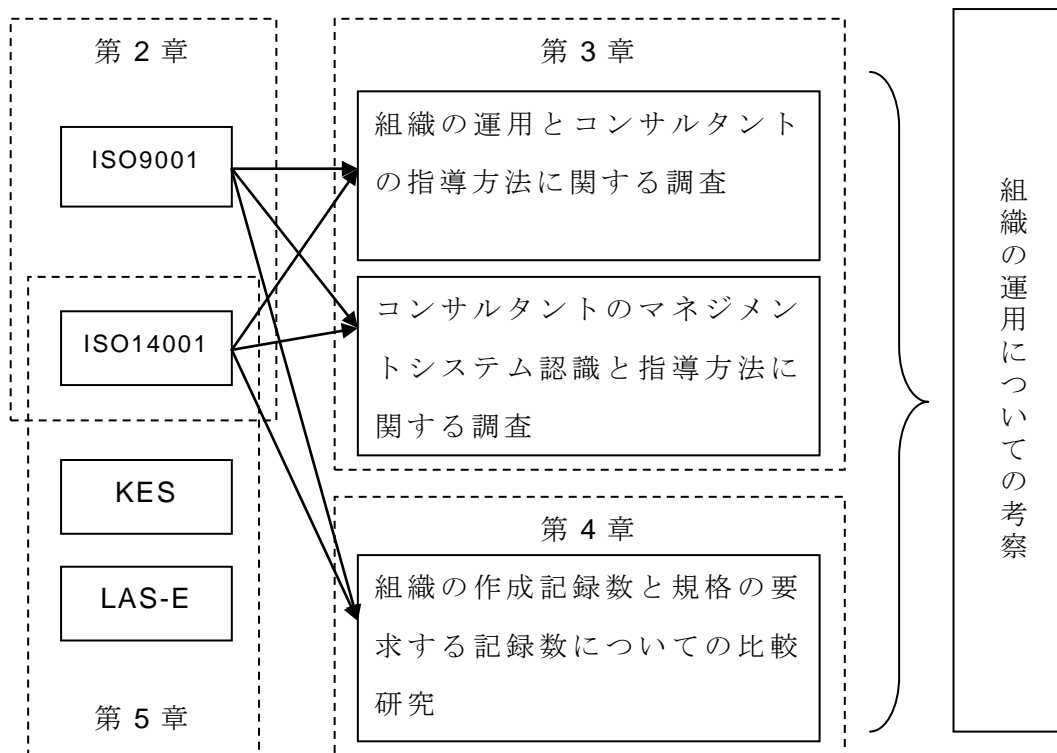


図 1-1 論文構成

1-3 本論文の学術的意義と社会的意義

世界の中でも、日本の ISO マネジメントシステム取得件数は非常に高い。一方、この分野の研究は非常に少ない。そのため、取得の実態を調べその課題点を証明することは、学術的にも非常に重要なことである。

本論文では、組織の運用実態調査と記録作成の分析の切り口に加えて、多様化するマネジメントシステムをあらゆる点から分析することで、以下のような点を明らかにした。

(1) 「企業の ISO マネジメントシステム運用の実態」

組織がマネジメントシステムを効果的に運用できるか否かは、コンサルタントのマネジメントシステムの認識の違い及び指導方法に大きく影響を受けることを明らかにした。

(2) 「ISO の記録の実態」

組織は、規格要求事項となっている記録作成数よりもより多くの記録を作成していること及びその原因 3 点を明らかにした。

(3) 「ISO14001 とローカルマネジメントシステムの比較」

システムの概要やシステム内容、要求事項やメリット、デメリットなどを比較し、それぞれのシステムの性質や特徴を明確にした。

以上の内容について研究をおこなうことは、次の 4 点における指標となり、社会的意義があると考えられる。

(1)ISO に取り組む組織がいかに運用を効果的におこなうか、コンサルタント選定の観点からの指標となる点

(2)ISO コンサルタント会社が、組織の運用をより効果的に導くためのコンサルタント指導方法およびマネジメントシステム認識に対する指標となる点

(3)要求事項記録作成に対する、自社の作成記録に対する指標となる点。

(4)様々なマネジメントシステムの中から、自社に合ったマネジメントシステムを選定する指標となる点